

TS（トータル・サティスファクション）を目指して③①

「メッシ選手×11人」はどのくらい強いのか

校長室担当より

サッカーワールドカップで MVP に輝いたアルゼンチンのメッシ選手。彼が 11 人そろったとしたらどのくらい強いのか興味があるところで。あの森保ジャパンに勝てるくらい十分な死角のないチームができるかどうか、私は疑問に思いますが、皆さんはいかがでしょうか。

「どうしてあの人は誰にでもできるこんな簡単なこともできないのだろう。」「この仕事に就くのなら、これくらいの知識を身につけているのは当然だろう！」と思ったことはありませんか？

学び続けることは私たちの責務です。ただ、私たちは育ってきた環境、目指してきた学びの方向性、それに向けて学んできた内容、さらには今後の目標などが様々異なっています。したがってそれぞれが強みや不得意なことがあることは言うまでもありません。にもかかわらず、自分にできることは相手にもできると思い込み、過度の要求をしたり、優越感に浸って時には周囲に非難の言葉を伝えたりすることがあります。

始業式で児童生徒に私が伝えた内容を覚えていらっしゃるでしょうか。これだけ長い人間の歴史の中で人間は信じられないほどの進化を遂げてきました。しかしまだ何でもできるスーパーマンのような人間は生まれていません。これは人間には達成できないことだと私は思います。私は無宗教ですが、そもそも何かの大いなる力によって生命が誕生する際に、生物そのものはお互いに助け合うことを宿命づけられているものだと考えているからです。特に人間は、進化の過程でその力を強化してきたとも感じています。

人間には誰にでも得意不得意があります。本来は自分が得意なところで、相手の苦手な部分を助け、苦手なところは、相手の得意なところで助けてもらい、チームとして死角を無くしていけばいいのです。ところが損得勘定等が邪魔をして、強みを人のために活かすこともできなくなったり、相手の弱さを馬鹿にすることから自分の弱みを見せて人に頼ることもできなったり、自分の方が年上だとか経験があるといった妙なプライドで相手の強さを認めることができなくなってしまう時があります。その結果、互いのバランスが悪くなり、自分自身のバランスも崩れ、

所属する組織やチーム全体が機能不全に陥ってしまうこともあります。11人のメッシ選手というチームでは、そのような状況になることも考えられます。

他の人が苦手なように見えることは自分にとっての得意なこと。ほかの人が優れて見えることは、自分にとっての苦手なことだと考えましょう。そうするとお互いを補えるとともに、自分の成長させる方向性が見えてきて周りの人に学ぶことができます。自他の不得意なこと（弱み）を尊重しつつ、得意なこと（強み）に目を向けていくことは、学校教育目標である「自他を大切にすること」に他なりません。この姿を児童生徒へ示しながら、いい学校をつくりましょう、一緒に。（令和5年2月3日）